



# 生物多様性センター Biodiversity Center of Japan

第13号

# ニュースレター

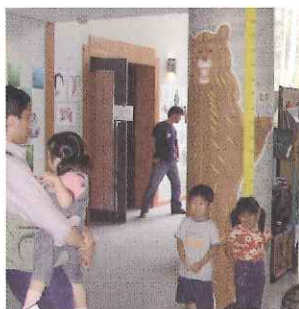
2004. 10.25

## CONTENTS

生物多様性センターでイベントを開催しました！	1～2
ぼくの動物園 ～身近な自然に目を向けよう～	3
第7回自然系調査研究機関連絡会議開催のご案内	4
生物多様性センターに収蔵している標本の紹介（第四回）	5
山梨県の「博物館を活用した夏休み自由研究プロジェクト」に参加しました	6
センターの動き	6

## 生物多様性センターでイベントを開催しました！

去る8月8日、生物多様性センターでは毎年恒例の夏のイベント「生物多様性まつり2004」を開催しました。このイベントは、生物多様性の保全に関する普及啓発の一環として実施しているもので、生物多様性について幅広い方々に理解して頂くことを目的として、平成12年以來毎年開催しています。今回も各種展示や体験会などを通して、子供から大人まで生物多様性について理解頂けるような内容の催し物を数多く実施しました。前日まで時折にわか雨が降る不安定な天候が続いていましたが、イベント当日は、終日晴天に恵まれ、親子連れなど約300人の来場者で賑わいました。



今回のイベントでは、ゲームなどを通して環境について学ぶ「プロジェクトワイルド体験会」、富士山周辺の自然を体感してもらう自然観察会、当センターで収蔵している標本を一挙に公開する標本展示、標本についての理解を深めてもらうことを目的として、昆虫・植物の標本を実際に作製する標本作製講習会などの毎年恒例となった催し物をはじめ、今回から新たな試みとして、藻場についての理解を深めて頂く目的で海藻標本作製体験会を実施しました。プロジェクトワイルドや自然観察会では、好天に恵まれたこともあり、小学生を中心とした多くの子供たちが参加し、ゲームをしながら身近な自然について理解したり、センター周辺の森に入り、富士山周辺の森の成り立ちについて学んで頂きました。また、標本特別展示では、普段公開していない収蔵庫に入り、トキやイリオモテヤマネコなどの貴重な標本をはじめとして、当センターで収蔵しているすべての標本を見て頂くツアーを開催し、子供から大人まで多くの方に参加頂き、普段は見ることができない多種多様な生物の標本をご覧頂きました。今回から新たに実施した海藻標本作製体験会では、海を見立てた水槽から実際に海藻を採取して、標本を作製するまでの一連の工程を体験してもらい、藻場を構成する多様な海藻について学んで頂きました。終日たくさんの子供たちで賑わい、今回実施した中で一番の人気コーナーとなりました。さらに、特別講演として小口尚良氏を招き、身近な自然やそこに暮らす動物たちについて子供にもわかりやすい内容でお話いただきました。（※小口氏には講演のテーマでもありました「ぼくの動物園」というタイトルで、次ページに寄稿して頂いています。）

一日という限られた時間ではありますが、多くの方に生物多様性についての理解を深めて頂いたものと思っております。イベント開催にあたりご協力頂いた皆様と、ご来場頂いた多くの皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。



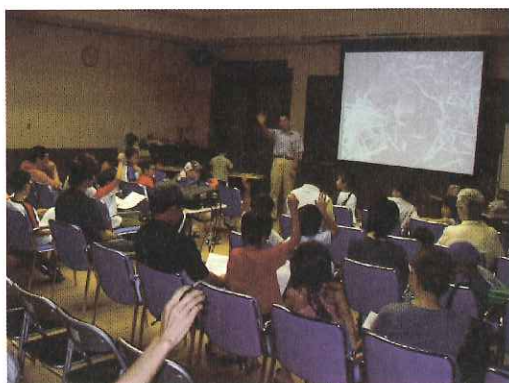
海藻標本作成体験会



自然観察会



標本特別展示



講演会「ぼくの動物園」～身近な自然に目を向けよう～



プロジェクトワイルド体験会

**ぼくの動物園 ～身近な自然に目を向けよう～**  
 - 小口 尚良 -

動物園が好きですか。ぼくは大好きで何回も行きました。でも最近はもっと素敵なお動物園を知り、そこで動物たちの暮らしぶりを見て楽しんでいます。ぼくの動物園はいろいろなところにあります。みつけたり、自分で作ったりしています。

まず1つ目の動物園は家のまわりに作ります。動物園といっても、檻を作ってつかまえてきた動物を飼うわけではありません。閉じ込めてしまっただけ、餌をどうやって手に入れるのか、どんな動物に食べられているのか、食べられないためにどんな工夫をしているのかなど大切なことを知ることが難しくなります。(※1) ですから、動物たちに必要な場所を作って来てもらうのです。食べ物になる植物を植えたり、小さな池を作ったり…。前の家では、庭にチョウの幼虫が食べるキャベツやパセリ、ユズなどを植えました。しばらくしたら、ちゃんとチョウが卵を産みに来てくれました。そこでは、のろまだと思っていたモンシロチョウの幼虫が、餌を探しに近づいてきたアシナガバチから見事に逃げるのを見て感動したり、アゲハチョウの幼虫の模様の秘密に気付いたりしました。小さな池にはアマガエルやヤマアカガエルが来てくれて、鳴く様子を撮影することができました。自分の家の動物園は、動物たちと一緒に暮らしながら毎日見ることが出来る楽しい動物園です。

2つ目の動物園は自分が生活している地域のあちこちにありま。散歩をしているいろいろな動物に出会うコースや、「そろそろ季節かな」と会いに出かけ



(上) カラスアゲハ幼虫  
アゲハチョウの幼虫は種(種類)によって少しずつ模様がちがいます。どのようにも意味があるはずですが。



(右) モグラ (アズマモグラ)  
トンネルでの生活にびったりの体。いつも土の中にいるのでなかなかお目にはかかれませぬ。

ていく場所などです。お気に入りの場所の1つは、近くのおじさんに教えてもらったカエル合戦の見られる池です。何百匹ものヒキガエルが卵を産みにやってくる、メスをめぐって雄同士が争います。すごい光景です。いろいろな動物たちがすむ地域は、いつまでも大切にしたい動物園です。

3つ目の動物園は近くの山の中にあります。動物が来てくれるように巣箱をかけたり池を作ったりします。ここではムササビやリス、野ネズミなど野生の哺乳類の暮らしぶりを見ることができます。東京の上野動物園にもムササビはいますが、ぼくの動物園のムササビは、夕方になると起きて巣から出てきて、目の前を滑空してくれます。巣の材料も近くのスギやヒノキの皮を使います。本物の生活を見せてくれます。何よりうれしかったのは、ぼくの作った巣箱で赤ちゃんを産んだことです。動物たちがくらしやすい環境を作って動物たちの応援をするという楽しみもあります。

ぼくたちの身近には、動物園では見ることができない本当の姿を見せてくれる自然がたくさんあります。発見もたくさんできます。そして、どの生き物もみんなちがってみんなすごくてみんな大切なんだということを教えてくれます。

※1…もちろん飼うことによって発見できることもたくさんあります。みんなで見ることが出来るので、工夫や注意をすれば、飼育も大切なことだと思います。



(上) アマガエル  
体は小さいけど声はとても大きなアマガエル。ひみつはこんなに大きくふくらませるのだ。  
(下) ムササビの滑空  
ふつうの動物園ではみられない本物の滑空です。





生物多様性センターに収蔵している標本の紹介 (第四回)

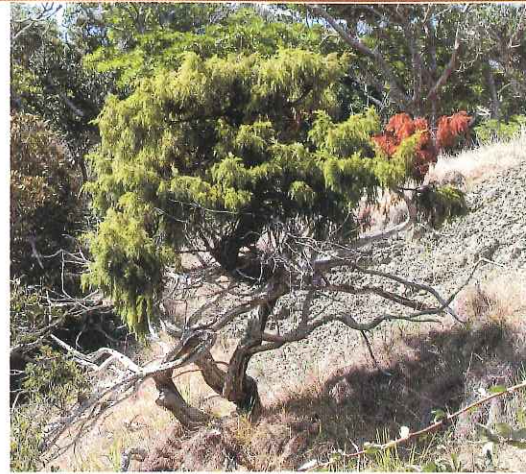
和名：シمامロ

RDB ランク：VU (絶滅危惧Ⅱ類)

学名：*Juniperus taxifolia* Hook. et Arn.

形態の特徴：土壌の浅い岩石地ではほふく状、土壌が深く微風の環境では直立性の高木になる。ふつうはハイマツのような形態で地面にはりつき、枝を下垂する。葉は針葉3輪生、裏面の2条の白線はわずかに凹む。葉質は柔らかく、握っても痛くない。雌雄異株。花は4～5月に開花する。果実は毬果で、12月から翌年の1月頃成熟する。

分布：東京都小笠原諸島にのみ分布する日本固有種



聟島に生育するシمامロ (写真提供：加藤 英寿)

生物多様性センターには、小笠原諸島の様々な植物標本が収蔵されており、今回紹介するシمامロもそのひとつです。シمامロが生育する小笠原諸島は、東京から約1,000km 南方に位置し、大小約30の島からなります。また、小笠原諸島は過去に一度も大陸と陸続きになつたことがない海洋島であるため、独自の進化を遂げた固有植物が多く生育しています。

シمامロは小笠原固有植物の中でも唯一の針葉樹です。一般に、針葉樹類は分布拡大をするにあたって、大洋を渡るような長距離種子散布の手段を持っていません。しかし、シمامロを含むビャクシン属の植物は、例外的に鳥散布によって分布を広げることが知られています。通常、多くの針葉樹の実が「松ぼっくり状」ですが、このビャクシン属の実は、サイズが小振りであるうえに、果汁のような液体を備えているため、鳥が好んでこれを食べます。シمامロの祖先も、鳥散布によって小笠原諸島に運ばれて定着し、長い時間をかけて現在の形に進化してきたと考えられています。

シمامロは材中に多量の樹脂分を含み、火をつけると良く燃えることが知られています。このため戦前は“ヒデノキ (火出の木)”と呼ばれ、焚きつけ材として使用されていました。しかし、明治時代の末期にカツオ漁が盛んになるにつれて、シمامロはカツオブシ製造の燻蒸材として大量に伐採されたため、その個体数は大幅に減少してしまつたといわれています。

これまでに小笠原諸島の中でも<sup>むこじま</sup>聟島、父島、兄島、弟島、向島、姉島、妹島、姪島の8島において、シمامロの生育が確認されています。しかし、各島での生育状況は必ずしも良いわけではなく、特に<sup>むこじま</sup>聟島では1株が確認されているだけです。現在、環境省では、シمامロのような貴重な小笠原固有植物の保護活動の一環として、野外調査、植生復元計画、シンポジウム開催などに取り組んでいます。



- ・標本写真 (左)  
センター収蔵標本 (小笠原諸島兄島産)
- ・標本写真 (右)  
シمامロの果実 (矢印)

※センターストック標本：植物・乾燥標本

※参考文献：

- ・「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック— 8 植物 I (維管束植物)」環境庁 編 (2000) (財) 自然環境研究センター
- ・「孤島の生物たち—ガラパゴスと小笠原—」小野幹雄 (1994) 岩波書店

山梨県の「博物館を活用した夏休み自由研究プロジェクト」に参加しました

山梨県では、県立博物館の教育・交流活動の一環として、県内の博物館と連携し、子どもたちに新たな学習の場を紹介するネットワークを構築しています。生物多様性センターもこのネットワークに参加しておりますが、7月24日に活動の一環として小・中学生を対象とした「夏休み自由研究プロジェクト」が開催されましたので参加しました。

「夏休み自由研究プロジェクト」は、県内博物館の、それぞれの館の紹介を含めて、博物館を活用した夏休みの自由研究のヒントとなるようなことを子どもたちに紹介するプロジェクトです。生物多様性センターも日頃の業務紹介をはじめとして、「生物多様性ってなに?」「生物多様性ってなぜ大切なのだろう?」などの自由研究のヒントとなる話題を紹介し、8月8日に催される「生物多様性まつり2004」に近隣の子どもたちもたくさんご来場いただけるよう案内を行いました。子どもたちには、実際に見て触れるタヌキの毛皮標本がとても好評で多様性センターのブースも多くの子どもたちで賑わいました。



\*センターの動き\* 2004年7月～10月

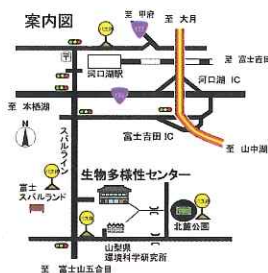
- 7/24 山梨県博物館ネットワーク (於: 甲府市)
- 8/4 第一回植生分科会 (於: 東京・新宿御苑)
- 8/8 生物多様性祭り 2004
- 8/12 干潟検討会 (於: 東京・東京海洋大学)
- 8/31 JICA アルゼンチンカウンターパート研修
- 9/6 JICA 集団研修「地球地図作製技術」コース
- 9/24 JICA 研修 (アフリカ特設&マレーシア国別)
- 9/25 第17回巨木を語ろう全国フォーラム (於: 兵庫県・柏原町)
- 9/29 JICA「生物多様性情報システム研修」開始 (~11/19)
- 10/5 植生調査北陸調査ブロック会議 (於: 富山県) を皮切りに  
全国6ブロックで順次ブロック調査会議を開催
- 10/18 JICA インドネシア環境情報システム研修
- 10/25 JICA 自然体験を通した初等・中等教育における環境教育開発トレーニング研修



9/15 干潟調査の様子

～展示室の土・日開館に関するお知らせ～

生物多様性センター・展示室は11月～4月までの冬季期間、土・日曜日は閉館いたします。生物多様性センターではこれまでの既設の展示に加えて、職員の手作りによるハンズオン展示を逐次更新しています。展示室は平日の下記の時間無料で公開しておりますので、お近くにお越しの際はどうぞお立ち寄り下さい。また、平日は団体の見学対応も行っております。ことちらもどうぞご利用下さい。  
**展示室 (入場無料)、図書閲覧室 開館時間: 9:00～17:00 休館日: 土・日・祝日、12/28～1/4**



発行: 環境省自然環境局生物多様性センター  
 〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾 5597-1  
 電話: 0555-72-6031 FAX: 0555-72-6032

URL: <http://www.biodic.go.jp/> e-mail: [newsman@biodic.go.jp](mailto:newsman@biodic.go.jp)

※ニューズレターは下記 URL からもご覧頂けます。

URL: <http://www.biodic.go.jp/center/news/>